



# CHALLENGING SPIRIT

～ 海洋インフラを支える技術者たち～

vol.4

富士山を望み、日本三大美港のひとつに数えられる清水港。物流機能の中枢を担う新興津コンテナターミナルでは、現在、水深15m岸壁の拡張整備が進められている。

この日、ターミナルの対岸にある製作ヤードで行われていたのは、岸壁本体に使われるハイブリットケーソン2函の製作工事。約1年前に着手した工事は、いよいよ最終段階を迎える、コンクリートの打設が急ピッチで進められていた。

ケーソン1函の大きさは、縦20.4m×横24.5m×高さ

19.7m。広大なヤードに並べられた2函の巨大なケーソン。そのスケール感は、7階建てのマンション2棟に相当する。最終的にこれらのケーソンは、海底に設置され岸壁の一部として半永久的な構造物となる。

土木技術者として36年のキャリアを持つ北村拓也所長（監理技術者）は、自らの使命について、こう話してくれた。「自分たちが作るインフラは後世に残るもの。だからこそ、気を引き締めて、ちゃんとしたもの、いいものを作らなければならない」。



＜プロフィール＞  
西村尚己 /Naoki Nishimura  
株式会社アフロの fotograffer（アフロスポーツ所属）。1994年、大阪大学大学院工学研究科修了後、運輸省（現国土交通省）入省。本省、北海道開発局、中部・近畿・九州地方整備局、下関市、中部国際空港㈱でインフラ整備に携わりながらアマチュアカメラマンとして活動。2016年、同省を退職し、アフロに入社。オリンピックをはじめ国内外のスポーツ撮影を中心に活動中。